



AIで何でも出来る？ 人にしか出来ない事が大切

AI(人工知能)がもてはやされている。AIを使えば何でも出来る。果たして本当か？それについて新井紀子著「AI vs 教科書が読めない子どもたち」は興味深い。

AIで出来るのは計算。そのスピードが超速い。ビッグデータ等、膨大なデータの集計や、検索を人力でしたら何年もかかるのでこれまで出来なかった。AIなら瞬時だ。しかし、データをどう検索し、集計するか等、仕事の意味を考える力はAIにはない。

これからの人の仕事

この事から今後、人の仕事はAIでも出来る計算から、考えること、問題の意味を探り、対策を考える仕事になると云う。「何故、ここで掛け算をするのか、

何故、割り算をするのか」を考える力を身につける事が大切なのだ。計算ばかりの練習は不要。問題の意味が分かれば計算は電卓で良い。

暗記ではなく

「〇〇年に何が起きた」等を暗記して試験に備える・・・と言うのが従来型勉強。大切なのは、暗記では無く事実の意味を理解する事なのだ。

著者らの基礎的読解力調査では「子供達が教科書を理解できていない」だから問題を理解できず、正解に到達できないとある。

学習に大切なのは国語。物事の論理を組み立て考え、文章化する力を身につける事。その力を養う前の英語教育は混乱させるだけだ。あなたはこう思われますか？

日ノ出湧水

横浜市中区日ノ出町二丁目

二〇一九年九月



大岡川の左岸を下流の日ノ出町に向かつて歩くと、黄金橋を過ぎた所に、こんこんと湧き出る泉、「日ノ出湧水」がある。

この大岡川の一帯は元は海。埋め立てによって陸地になった所。その為、真水を得るのは困難であった。

一方、この場所から西へ二、三百mの野毛山の麓には、水が湧き出る所があった。

その水を鑄鉄管を通して、この場所まで送り「日ノ出湧水」としたそう。明治の初めの頃らしいが、はっきりしない。関東大震災の時には、貴重な水となったと云う。

スケッチの前日、横浜は猛烈な雷雨。この川の上流では氾濫危険水位を超えた。川岸の草が根こそぎ流された。その草が、上げ潮に乗って流されてきた。

